

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 12 年目の報告)

平成 24 年 4 月 ~ 平成 25 年 3 月

和歌山県田辺市

目 次

・ 田辺市におけるひきこもり支援	
1．田辺市ひきこもり支援について	．．．． 1
2．田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ	．．．． 3
・ 田辺市ひきこもり検討委員感想	．．．． 5
・ 平成 24 年度 支援の実際	
1．相談実績	．．．． 11
2．支援の報告	
(1) 家族会 (ほっこり会)	．．．． 17
(2) 青年自助会実績	
(3) 啓発活動・視察・実習・問い合わせ	．．．． 18
(4) ひきこもり支援啓発講演会	．．．． 19
(5) 行政局講座 (中辺路地区)	．．．． 24
(6) 田辺市ひきこもり検討委員会 議題 / 活動	．．．． 29
(7) ひきこもり検討委員会 講義	．．．． 30
3．田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想	．．．． 33
・ 参考資料	
1．ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ	．．．． 37
2．NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ	．．．． 38
3．NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ	．．．． 41
4．NPO法人 共生舎 紹介ビラ	．．．． 42
5．田辺市ひきこもり検討委員会 設置要綱 / 委員構成	．．．． 43

・ 田辺市ひきこもり支援体制の今後について

= 今後の支援体制を考える =

田辺市におけるひきこもり支援は、平成 25 年 1 月で 12 年を迎えました。

近年、子ども・若者を取り巻く社会環境や子ども・若者の意識は大きく変化し、ひきこもり問題の顕在化や情報化の急激な進展に伴う事件の多発等、新たな課題が浮かび上がってきています。

国では、このような状況を踏まえ、平成 22 年に「子ども・若者育成支援推進法」が施行されました。これに基づき、和歌山県では、平成 24 年度を初年度として、平成 28 年度までの 5 箇年間、「和歌山県子ども・若者計画～元気な和歌山の未来を拓く人づくりを目指して～」が策定されています。この計画は、家庭、学校、地域、事業者、関係団体等全ての県民が相互に連携・協力し、子ども・若者の育成と自立への支援を進めていくための指針です。「元気な和歌山の未来を拓く人づくり」を基本理念とし、計画の基本的な柱は、

全ての子ども・若者の健やかな成長を支援します。

困難を有する子ども・若者及びその家族をきめ細かく支援します。

子ども・若者を社会全体で支えるための環境を整備します。

となっています。このうち、ひきこもりに対する支援は、 の計画に含まれます。

田辺市では、全国に先駆けて官民が連携し、ひきこもり支援に取り組んできました。当初から比べ、相談ができる機関が増え、支援団体の活動も盛んになり、社会資源も充実しつつあります。

窓口開設以降、思春期及び青年期の相談が主となっていましたが、最近では 40 歳以上の壮年期の方の相談も増えています。壮年期では、ひきこもりの初期段階において相談を利用することが少なく長期に及んでいる場合や、一定の就労経験があるものの人間関係のつまずきなど様々な理由からひきこもりに至っています。思春期・青年期では、社会参加を目指した支援が中心となりますが、壮年期になると両親の高齢化による経済的な問題など新たな課題に対する支援が必要となります。

どの年代においても、できる限り早期に相談へつなげ、適切な機関で支援を受けることが重要です。そのためには、小中学校の不登校によるひきこもりや、高校生の不登校や退学からの長期のひきこもりを防ぐための支援として、学校と支援機関の連携が必要です。また、就労へむけての支援を含めた、長期的・総合的な支援が望まれます。田辺市においても、国や県の動向を踏まえつつ、ライフステージに合わせた包括的な支援体制を構築する時期がきているのかもしれませんが。

ひきこもり相談窓口

ご家族・ご本人さんだけで、悩んでいませんか？



- 不登校のまま卒業・・・
- 中退後自宅中心の生活をしている・・・
- 進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない・・・

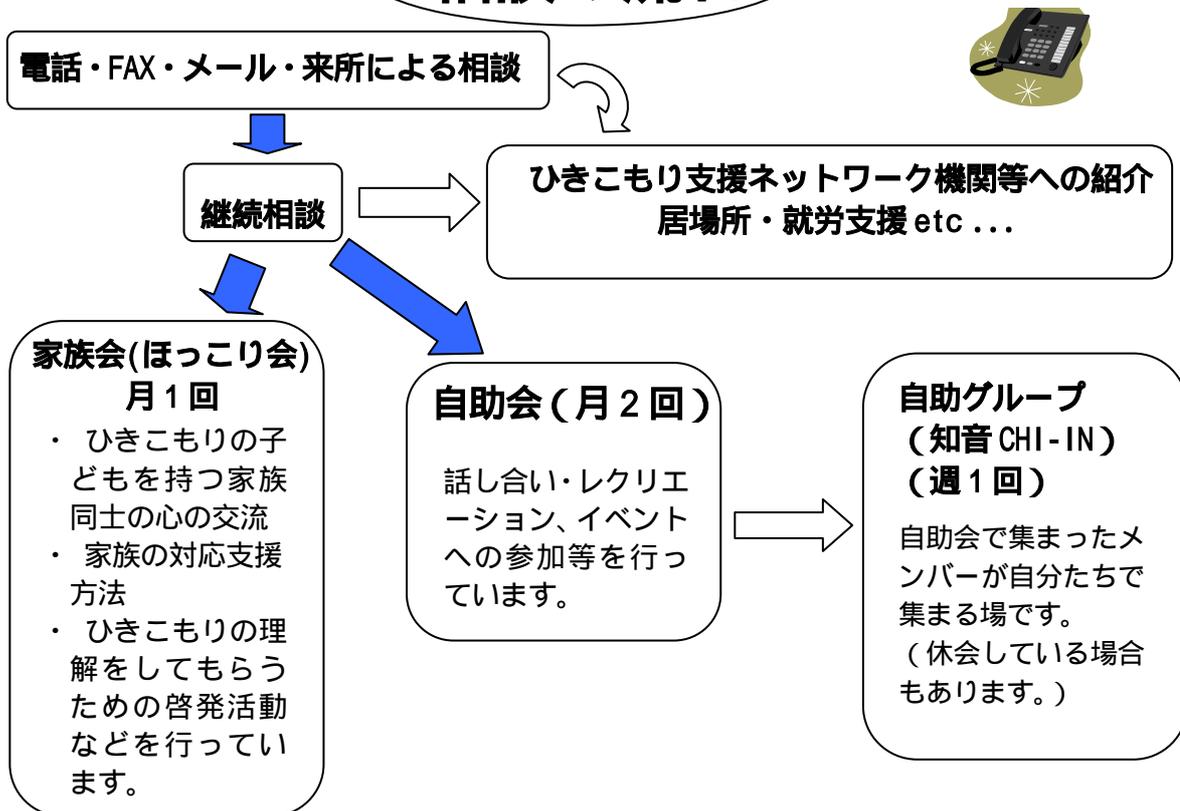
まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に行きついでいくうちに徐々に元気を取り戻して行く青年が、自助グループで色んな活動に参加しています。

家族の方は、家族会もあります。

自助会、家族会（ほっこり会）へは、相談窓口担当がお会いした後、紹介させていただきます。

相談の流れ



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901 (平日 8 : 30 ~ 17 : 15)

TEL・FAX : 0739-26-4933 (ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

Hp : <http://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/index.html>

保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200 (代表) (平日 9 : 00 ~ 17 : 45)



田辺市ひきこもり検討委員感想

『「最後の家族」と今の私の心模様』

田辺市ひきこもり検討委員会 委員長 布袋 太三

村上龍に『最後の家族』という小説がある。

十年以上前の作品で、市立図書館でもけっこう手垢のついたふうになっていたからかなり多数の読者がいたのだろう。

細部は曖昧になってしまったが、ひきこもりの青年がふと垣間見た隣家のDV被害者を救出しようとして、やがてひきこもり生活から脱していく筋書きだったと思う。

それに、高卒後イタリアに旅立つ芯の強そうな妹や、どこにでもあるようなリストラされる父親、ひきこもり支援の人々の間でしだいに新たな自意識をまといはじめる母親などがさまざまなエピソードで絡みあうという家族物語なのである。

終章は父親がふるさとに近い町で開いた喫茶店に家族が集うという設定だから、家族ののっぴきならない波乱が窺えるわけではない。大団円ともいえないが小さなハッピーに包まれているという感じではあった。いろいろなことはあったが、もう危機は脱した。ひきこもりの予後は何とかなるのだと安心させてくれる。

もっとも、随所に書き込まれているひきこもり青年の日常とそれにふりまわされる家族の有り様などは十分なリアリティがあって、しかも、当時のひきこもりに関するさまざまな言説にも踏まえられているので、関係者であればさらに読み応えを感じるものと思う。

まだ読了されていないなら一度手にとってみてはどうだろうかと思っている。

ところで、私は今年古希を迎えた。

いろいろなことがあり過ぎて、だが神の御加護もあって、私はいわば「おまけ」のような人生を今も生き続けている。幸いにして「後遺症」らしきものもない。しかし、実はこの普通の健康がいつまでもつのか、最近は少々不安になってきた。

そこで、私は今、本気で次のステージを考え出すようになった。

要するに、そろそろ残りの生きる時間を逆算して、気楽にしたいことに没頭する底抜けの自由が欲しいと思いはじめたのだ。

私はもう何年も前からこの「検討委員会」にいる。退職後のちょっとした身軽さに当時の巧みなスカウトもあって、私は身の程知らずにも二つ返事をしてしまったのが発端であった。しかし、この仕事は生来怠け者の私にはやはり荷が重かった。大事なことと思えば思うほどその重さはいや増した。

諸般の状況は私にそろそろフェードアウトすべき時がきていることを確実に示唆している。気がつくといない、あるいは私がいらないことさえ気づかないような、そんな日はもうそこまできている……。

『ひきこもり相談窓口について』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長 西脇 潤

ひきこもり検討委員会に参加させていただく中で、他の障害者や高齢者の窓口相談とひきこもり相談窓口の違いは何か？相談件数が上記の2窓口に比べ少ない原因は何か？今後のひきこもり相談窓口が行政機関の窓口として果たしてゆくべき役割とは何か？を時々考えることがある。今回はそのことについて少し文章にしてみました。

相談実績を上向かせる為に必要なこと

現状及びひきこもり当事者の現状

ひきこもりの定義は、6ヶ月以上就労も就学もそれらの準備もしていない状況。田辺市に潜在的に在住しているひきこもり当事者の想定数に比べると相談実績は極めて少ない。なぜか？一つにはひきこもりという状況の特性、少なくとも当事者はひきこもりの状況にいる限りは情報から隔絶されており、自分から相談窓口の存在を知ることが難しいし、どのような支援がそこで受けられるかのイメージも持ちづらい。一方、家族はというと、家族は本人よりは情報に触れる機会が多いものの、自分の子や兄弟の状態を一時的な状況と見なして危機感を持つ状態になるまでに時間が掛かる上に、恥や外見を気にして気楽に相談に行こうという気になりづらい。(普通の子と一緒に病気や障害ではないのだからきっといつかは立ち直ってくれると期待してしまう。)

情報に気付きにくい。

社会資源の状況

以前よりは格段に整備されており、実際利用している当事者も増えてきている。が、純粋にひきこもっている若者の支援機関というよりも、ひきこもり状態から一歩踏み出し、就労や社会参加を希望し始めた当事者の支援の場となっている。(訪問支援は除く。)

障害者・高齢者との決定的な違い

当事者のニーズがはっきりしており、どんなサービスを利用したいかを本人ないし家族が明確に理解しているので、相談の内容がはっきりしている。(こんなサービスが受けたい、こんな事業所を探している等)

似たようなニーズを持つ当事者間で情報の共有がしやすく、相談事業所に足を運ぶきっかけを作りやすい。(支援学校つながり、病院つながり、介護事業所紹介等)

逆に言えば、ひきこもりの問題は、ひきこもっているという状況だけは共通するが、ひきこもっている原因やそこで発生している問題はそれぞれ個別の課題となっている。

また、その状況を打破する手段そのものを思いつかない状況にある中で、具体的に「こんな支援をして下さい。」と要望を本人ないし家族から発信しづらい状況になっている、とも思われる。

ひきこもり相談のあり方について

当事者にとってひきこもりから脱却するために有効な支援は何かと考えると以下のようなになる。

- ・ 具体的な直接支援(訪問面接、社会への橋渡し)
- ・ 各種社会資源の情報提示と利用に至るまでの調整
- ・ ひきこもりになった原因や今の状況を一緒に整理し考える支援
- ・ ひきこもりの状況を本人が客観的に自己認識できる支援
- ・ ひきこもっている状況が続くことが人生にマイナスになることを理解させる支援
- ・ ひきこもりから脱却しようと本人が思えるような動機付けを行う支援
- ・ ひきこもりから脱却する為の具体的な方策に関する情報提示の支援
- ・ 各種社会資源とのマッチングに関する支援

ただし、上記のような支援をひきこもり当事者が主体的に必要なとしているかとい

うと定かではない。むしろ、「現状に対して波風を立てずそっとしておいて欲しい。いずれは自分で何とかします。」という反応の方が強いのではないと思われる。根拠としてはひきこもりの絶対数（推定）に対し相談件数が少ないことと、支援機関の利用を行う利用者の大半がひきこもりの真っ只中ではなく、そこから一步踏み出そうとしている半ひきこもりないし元ひきこもりが多いことが挙げられる。

ひきこもり問題を解決するために必要なことは何か

大きくは、「ひきこもり予防」「早期発見」「社会資源の活用等による社会復帰支援」の3点と思われる。

予防に関しては、学校等教育機関と連携した予防教育等と実態把握、教育機関卒業後のアフターフォローの充実が重要であろう。

早期発見は、啓発や民生委員等のインフォーマルな地域資源との連携による相談しやすい環境整備と戸別訪問等による実態調査の実施が有効と思われる。

「社会資源の充実とその活用」は利用希望者のニーズに合わせ行政的な支援のもと充実させていくしかないであろう。

田辺の相談窓口への相談件数が伸びない理由について

田辺だけではないと思われるが、前述の早期発見がまず困難であり、更に発見したところで、本人が、何らかの社会資源を活用して今の生活を変えていこうという気持ちに、なかなかならないという問題があるのではないかと考える。

そもそも相談は、悩みを解決するという目的が本人にあってこそ成立するものであり、その目的のない人は相談をしない。

相談件数を伸ばし、活発に社会資源が活用される状況を作る為に何が必要か

地域のひきこもりの実態をどう把握するのか。とある地方では全家庭を訪問する等の調査を行ったらしい。自主的に声を上げにくい状況の中では、詳細な調査を丁寧にする以外に把握しづらいのではないかと。

何を相談したら良いのか分からない家族や当事者に、具体的な例を示すことで相談しやすい環境を作る。相談したいと思っているが、どこに相談に行けばよいのか分からない当事者を増やすことが必要ではないか。「今は相談に行かなくてもいいや。」「その内に、なんとかなるやろ。」「今はまだ、どこにも行きたくない。だれとも相談したくない。」と考えている層を減らしていくことが、遠回りでも事態を改善させてゆく上では重要と思われる。

『1年間の感想』

ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリー 長瀧信子

私はひきこもり青年の支援をして6年、ひきこもり検討委員会に参加させていただき、4年になります。

ひきこもり青年たちの支援についてや将来のことなどをみなさんと一緒に考えていける時間は、田辺市内ではこの委員会だけのような気がします。

委員会では報告や講演について話合いをしていますが、他に何かできることがあればいいのかなと思います。例えば、ひきこもりの実態調査や不登校の子供達の支援・相談をしている所との交流、社会福祉協議会などの連携先についての話し合いもしていければと思います。

今後も委員会、講演会などの活動が続いていくことを願います。

『2年間の小委員を経験して』

紀南こころの医療センター 神経精神科 医師 石田 卓也

私は平成23年度より2年間の間田辺市のひきこもり小委員を勤めさせていただきました。お引き受けさせていただいたときは、田辺市ひきこもり委員会が主催の講演会に齊藤環先生をお呼びした際に鍋を囲んだ食事会にご一緒させていただいたことがとてもいい思い出として残っております。毎月一度の小委員会への出席は毎回というわけではなかったのですが、支援へのアドバイスを医師としての視点から行うという事に努めたつもりではありません。しかし、経験の少ない私にとってもとても勉強させられるものが多かったと思います。また、ひきこもり相談員の皆さんが医療機関への受診が困難な、治療としても困難が多いと考えられるケースに本当に丁寧に粘り強く関わり続けられている様子を知ること、病院だけでは知ることのできない現場の方々の御努力や、医療機関へつながっていないケースが非常に多くあることも知ることができました。残念ながら平成24年度をもって小委員は終了させていただくこととなりますが、今後も田辺市とは関わりを持つことがあると思いますのでその時にはよろしくお願いたします。2年間本当にありがとうございました。

『平成23,24年度ひきこもり検討委員をつとめて』

紀南こころの医療センター 東 知幸

田辺市ひきこもり検討委員をつとめて満5年になりました。平成23年度には研究代表者としてひきこもり相談窓口開設以来の利用状況を統計学的に分析し、大委員会で「田辺市のひきこもり相談10年間の成果と課題」と題して報告いたしました。その結果、窓口を一定期間以上利用した事例の多くは改善に向かっていることが示唆されました。同時に継続相談が容易ではないことも示唆されました。ひきこもりの問題は一朝一夕に改善するものではありません。一回相談しただけで「相談しても意味がない」と受けとめられて、他機関につながることなく中断になってしまうのはとても残念なことです。そこで平成24年度には、ひきこもりの問題でお困りの方々に対して継続相談の重要性をご理解いただき、いかに継続相談へと結びつけるか、そして窓口利用を躊躇っている人たちにとっていかに相談しやすい環境を作るかを小委員会で議論を重ねました。動機付けというのは心理学において重要なテーマです。今後も心理学の立場から田辺市のひきこもり相談システムの発展に力を尽くしていきたいと考えています。

『ひきこもり検討委員として』

臨床心理士会 棚橋 育子

今年度も小委員を務めさせていただき、ありがとうございました。

月に1度、田辺市のさまざまな支援機関の方と直接お会いでき、話し合う機会を持つことは、私にとって非常に貴重な時間となっています。

それぞれの視点からの見立てや、実際の支援についてお伺いするなかで、自身の仕事を振り返ったり、新たなヒントをいただいたりすることも多かったです。とくに、ひきこもり相談の第一歩となる窓口のお仕事は、相談内容によって多様な対応が必要となり、本当に大変なことも多いと思いますが、いつも真摯に向き合われている担当

の方々の姿勢に頭が下がる思いです。

今後も、田辺市の豊富な資源を生かし、ネットワークを強いものにしていくことで、より充実した支援が行えるよう、私自身も微力ながら協力させていただきたいと思っています。

『委員になって』

田辺市教育委員会 生涯学習課 岡本 慎太郎

今年から、地区公民館から中央公民館へ異動となり、ひきこもり検討委員会委員として生涯学習課から参加させていただくことになりました。

生涯学習課は当事者に対し、直接支援する部署でもない為、検討委員会や小委員会へ参加させていただいても、委員会で飛び交う用語や支援の状況、現状に只々驚かされる一年であり、勉強の一年でした。

では、生涯学習・社会教育の分野でどのように関わっていけばいいのか。

その答えはこの一年ではなかなか見つからないものではありませんが、直接的な支援にはならなくても、「**支援する人を支援していける**」よう、地域全体でこの社会問題について考え、学ぶ「場」を作っていくことで、支援者にとっての課題の共有されたMYプレーンになるような「人づくり」を目指していくことが生涯学習・社会教育の分野で大事になってくるのではないかと改めて感じています。

年度途中からは、他の公務も重なり、なかなか月一回の小委員会には参加できず、ご迷惑をおかけしました。

一年間、ありがとうございました。

平成 24 年度 支援の実際

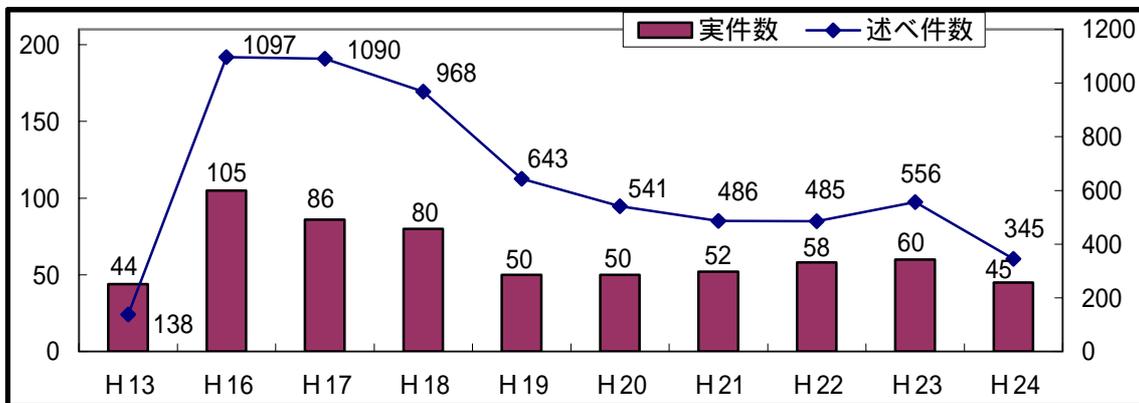
1 . 相談実績 平成 24 年度

相談窓口開設以降平成 25 年 3 月末までに 495 家族 514 件の相談がありました。
(内、平成 23 年度までに 450 家族 469 件)

(1) 年度別相談件数

窓口開設の平成 13 年度と平成 16 年度からの推移。平成 19 年度から平成 21 年度は、相談実件数は 50 件前後、平成 22 年・平成 23 年度は少し増である。
平成 24 年度の相談実件数は、45 件であり、前年度に比べて減少している。

	H 13	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24
実件数	44	105	86	80	50	50	52	58	60	45
述べ件数	138	1097	1090	968	643	541	486	485	556	345



(2) 平成 24 年 4 月 ~ 平成 25 年 3 月までの状況

月別相談延べ件数

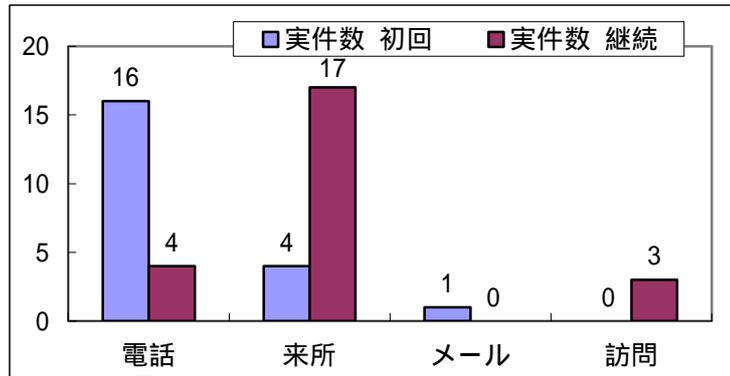
相談延べ件数は、昨年と比べ減少している。来所での相談が最も多く、次いで電話である。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計	
電話	8	13	16	11	8	4	60	
来所	22	17	12	18	17	17	103	
メール	0	0	0	0	0	0	0	
訪問	11	14	8	4	4	5	46	
合計	41	44	36	33	29	26	209	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期合計	総合計
電話	3	6	3	7	7	9	35	95
来所	16	15	11	10	11	15	78	181
メール	2	0	0	0	1	0	3	3
訪問	2	3	4	4	3	4	20	66
合計	23	24	18	21	22	28	136	345

相談実件数

相談実件数では、来所相談、電話相談の順に多い。
初回相談は、電話での相談が最も多い。

	実件数		合計
	初回	継続	
電話	16	4	20
来所	4	17	21
メール	1	0	1
訪問	0	3	3
合計	21	24	45

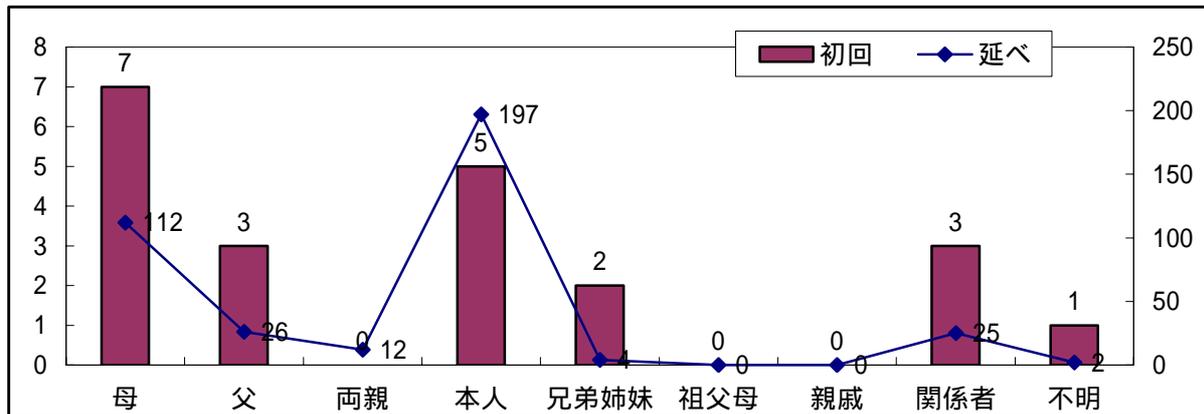


初回は、今年度、初めて相談に来られた方。(一度終了後、再度相談に来られた方も含む。)
継続は、昨年度より引き続き相談に来られた方。

相談者

相談者は、初回は、母が一番多く7人、次いで本人が5件である。
延べは、本人が最も多く、次いで母が多い。

	母	父	両親	本人	兄弟姉妹	祖父母	親戚	関係者	不明	合計
初回	7	3	0	5	2	0	0	3	1	21
延べ	112	26	12	197	4	0	0	25	2	378

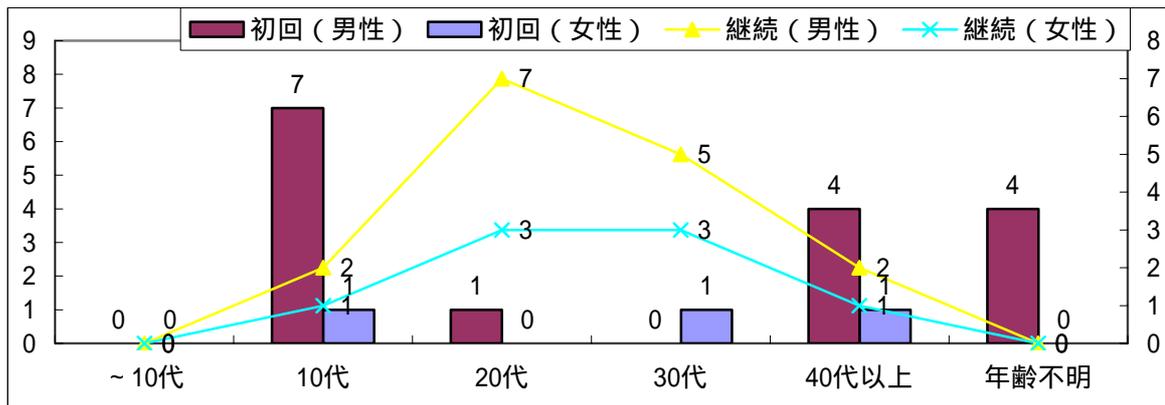


年代別男女別実件数（45件中）

年齢別にみても、10～20代が多く、男女比は、およそ7：3である。

	～10代	10代	20代	30代	40代以上	年齢不明	計	%
男	0	9	8	5	6	4	32	71%
女	0	2	3	4	2	0	11	24%
性別不明	0	0	0	0	0	2	2	5%
計	0	11	11	9	8	6	45	
%	0%	24%	24%	20%	18%	14%		

年代別（男性32件中・女性11件中）



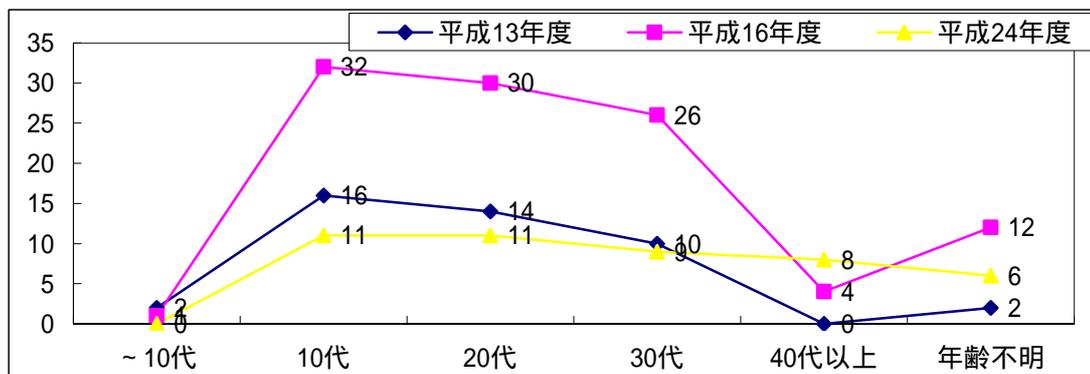
2名は、性別不明

実件数年代別年度別比較（平成13年度・平成16年度・平成24年度）

開設当初の平成13年度、相談件数が12年間で最も多い平成16年度、平成24年度の比較である。

過去の2年は、10代から30代が多く、40代以上は少ない。平成24年度は、10代、20代が一番多いが、40代以上の割合も増えている。

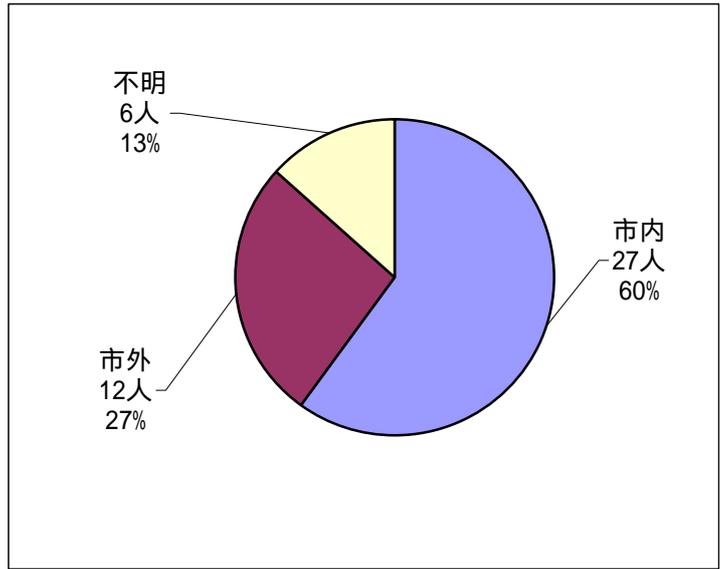
	～10代	10代	20代	30代	40代以上	年齢不明	計
平成13年度	2	16	14	10	0	2	44
平成16年度	1	32	30	26	4	12	105
平成24年度	0	11	11	9	8	6	45



居住別（45件中）

居住地別では、市内が60%である。

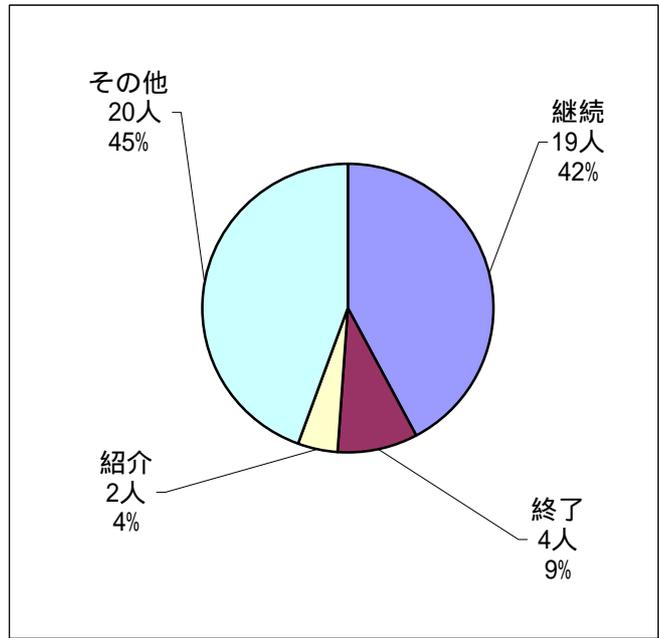
市内	27	60%
市外	12	27%
不明	6	13%
計	45	



相談結果（45件中）

相談を継続するものが約40%で、関係機関への紹介は4%に留まっている。

継続	19	42%
終了	4	9%
紹介	2	4%
その他	20	45%
計	45	



終了

- ・就労（1）
- ・就学（1）
- ・その他（2）

紹介

- ・南紀若者サポートステーション（1）
- ・ゆめふる 障害児・者相談支援センター（1）

その他（3ヶ月未満の継続も含む）

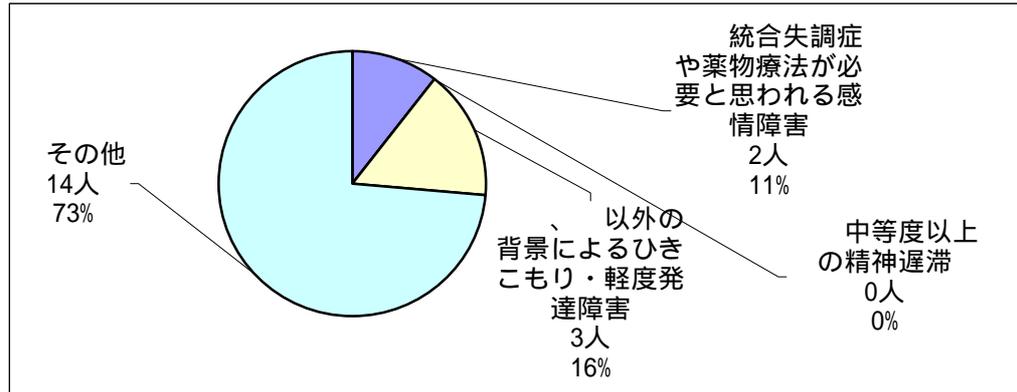
- ・本人からの相談のみ（5）
- ・家族からの相談のみ（12）
- ・関係者からの相談のみ（2）
- ・相談者不明からの相談のみ（1）

(3) 相談継続について

継続分類 (19件中)

その他は、他の背景がないひきこもりの方で、約70%である。

統合失調症や薬物療法が必要と思われる感情障害	2
中等度以上の精神遅滞	0
、 以外の背景によるひきこもり・軽度発達障害	3
その他	14
計	19

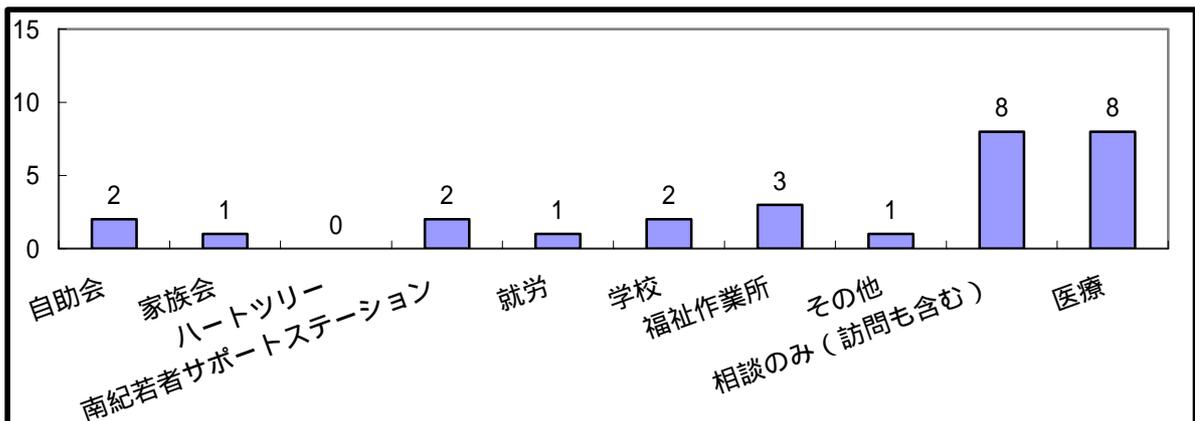


継続状況 (重複あり)

継続状況は、相談のみ (訪問も含む) が8人と多い。
相談のみ (訪問も含む) は、医療と重複している場合もある。

自助会	2
家族会	1
ハートツリー	0
南紀若者サポートステーション	2
就労	1
学校	2
福祉作業所	3
その他	1
相談のみ (訪問も含む)	8
医療	8

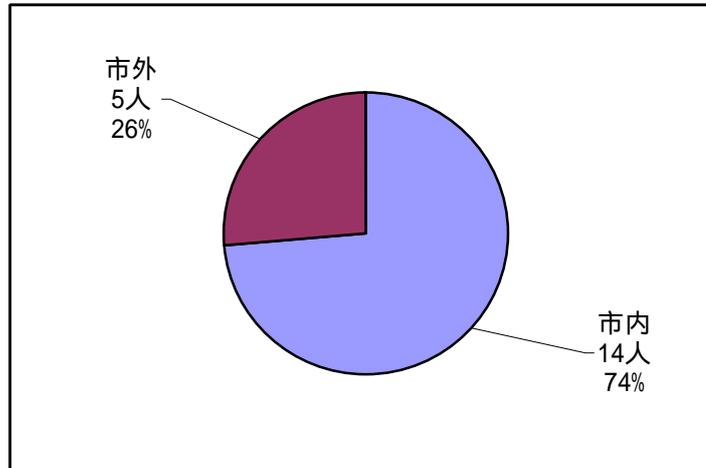
相談のみ (訪問も含む) は、
自助会や他の支援を利用していない方



継続居住別（19件中）

市内は74%、市外は26%である。

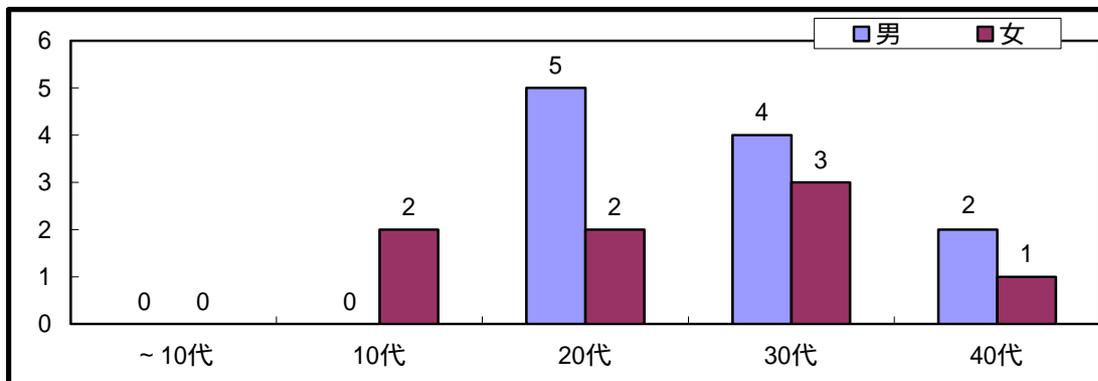
市内	14	74%
市外	5	26%
計	19	



継続年代別男女別件数（19件中）

年代別で見ると、男性は20代が、女性は、30代が一番多い。

	～10代	10代	20代	30代	40代	年齢不明	計
男	0	0	5	4	2	0	11
女	0	2	2	3	1	0	8
計	0	2	7	7	3	0	19



- 2 . 支援の報告

(1) 家族会

ほっこり会 (紀南地方ひきこもり家族の会) 実績

(平成 16 年 4 月より自主運営)

実施日	内 容	出席者				実数	参加 家族数	対象 家族数
		父	母	その他 関係者	窓口			
H 24. 4 . 10	話 合 い	0	3	1	2	6	3	11
H 24. 5 . 8	話 合 い	0	1	1	2	4	1	
H 24. 6 . 12	話 合 い	0	4	1	2	7	4	
H 24. 7 . 10	話 合 い	0	4	1	2	7	4	
H 24. 9 . 11	話 合 い	0	2	2	2	6	2	
H 24. 10 . 9	話 合 い	0	3	1	2	6	3	
H 24. 11 . 13	話 合 い	0	2	2	2	6	2	
H 24. 12 . 11	話 合 い	0	1	1	2	4	1	
H 25. 1 . 8	話 合 い	0	4	1	2	7	4	
H 25. 2 . 12	話 合 い	0	1	0	2	3	1	
H 25. 3 . 12	話 合 い	0	3	0	2	5	3	
	平 均	0	2.5	1.0	2.0	5.5	2.5	

(2) 青年自助会実績 (月 2 回の集まり)

実施日	内 容	出席者	窓口	実施日	内 容	出席者	窓口
H 24. 4 . 6	話 合 い ジグソーパズル作り	1	2	H 24. 11 . 2	ジグソーパズル作り	1	2
H 24. 4 . 20	話 合 い	1	2	H 24. 11 . 16	ジグソーパズル作り	1	2
H 24. 5 . 18	工 作	2	2	H 24. 12 . 7	ジグソーパズル作り	1	2
H 24. 6 . 1	話 合 い ジグソーパズル作り	1	2	H 24. 12 . 21	年 賀 状 作 り	1	2
H 24. 6 . 15	話 合 い ジグソーパズル作り	1	2	H 25. 2 . 1	ジグソーパズル作り	1	2
H 24. 7 . 20	話 合 い ジグソーパズル作り	2	2	H 25. 3 . 1	話 合 い	2	2
H 24. 9 . 21	話 合 い ジグソーパズル作り	1	2	H 25. 3 . 15	話 来 年 合 度 計 画	2	2
H 24. 10 . 5	ジグソーパズル作り	1	2				

(3) 啓発活動・視察・実習・問い合わせ

啓発活動

日 付	内 容 『 テ マ 』	人数
H 24 . 8 . 7	和歌山県 平成 24 年度第 1 回若者支援実務者交流研修会 『田辺市のひきこもり支援』	約 30 名
H 24 . 8 . 8	新庄地区民生委員研修会	11 名
H 24 . 8 . 30	南紀高等学校不登校対策研修会	50 名
H 24 . 10 . 31	有田保健所 有田圏域における「ひきこもり」者支援対策勉強会 『田辺市のひきこもり支援』	14 名
H 24 . 12 . 20	白浜町 ひきこもり家族・支援者等を対象とした教室 『田辺市のひきこもり支援』	25 名

視察

H 24 . 8 . 17	和歌山大学社会教育主事講習	9 名
H 24 . 8 . 22	大阪府 枚方市子ども青少年課	4 名
H 24 . 11 . 13	和歌山県 橋本市議会議員	2 名
H 24 . 11 . 14	兵庫県 豊岡市役所	3 名
H 25 . 3 . 8	愛知県 名古屋大学法学部	1 名
H 25 . 3 . 29	沖縄県 NPO法人 エスペーロ 福祉サービス事業所 フロンティア	3 名

問い合わせ

愛知県 精神保健福祉センター	愛知県 こころの推進室
秋田県 NHK秋田放送局	大阪府 貝塚市役所
山口県 岩国市定時制高等学校PTA	

(4) ひきこもり支援啓発講演会

主催：田辺市ひきこもり検討委員会・田辺市

共催：南紀若者サポートステーション

後援：田辺市教育委員会・田辺保健所・NPO法人ハートツリー

(公社)白浜・田辺青年会議所・和歌山県精神医学ソーシャルワーカー協会

朝日新聞和歌山総局・毎日新聞社和歌山支局

読売新聞和歌山支局・紀伊民報社・NHK和歌山放送局

(株)テレビ和歌山和歌山本社・(株)和歌山放送

産経新聞社和歌山支局

演題：『若者にとって希望の持てる社会とは』

- ひきこもり支援にみる緩やかな絆づくり -

講師：玄田 有史 氏

日時：平成24年10月13日(土)

参加者：123人(一般及び関係者)



【講演内容】

昨年、珍しい人に会った。本業は医師だが、宇宙飛行士の面接官であるという人。宇宙飛行士は、将来なりたい職業として子ども達に人気で、募集すると全国から何万人もの応募があり、そこから書類審査などを経て、最後の一人は面接で選ばれる。その最後の一人を選ぶのだから難しいし責任のある仕事。その人に、面接でどんなことを聞くのか尋ねてみた。すると、「色々あるうちでも大事な質問がある。それは、あなたは、自分が次の二つのうちのどちらに近いと思うか？」だと言う。二つとは、桃太郎 浦島太郎、みなさんどうですか？どちらが向いているかといえば、「浦島太郎」、どちらがしっかりしている感じがするかと考えたら、「桃太郎」ですね。「桃太郎」は、生きる目的がはっきりしている、刀も上手に使えるけれど、自分の力だけでは敵わないと認識して猿・キジ・犬に協力を頼む、すばらしいこと。優しい青年で、気持ちよく仕事をしてもらうためにきび団子を与えて、心遣いも出来る。それに引き換え、「浦島太郎」は、いい加減で、何となく海辺に居ていじめられている亀を見つけて、竜宮城へ付いて行って、楽しんで急に帰ることを思い出して、お土産を開けてはいけないと言われたのに開けてしまう。それでも、宇宙飛行士には「浦島太郎」がいい。宇宙は、はっきりわかっていることもあるけど、全くわからないことも多い。そんな、未知の世界に行くのに、完璧な人もいいけど「浦島太郎」的なところもないとやっていけない。本当に宇宙飛行士なるのは、「桃太郎」のような人だろうけど、しっかりしてれば上手くいくというものではない。わからないことがおもしろいのかも。先が見えると多少安心かもしれないが、「なるようになるんじゃないか」という気持ちが、大切なかもしれない。

ある会社の話。女性が活躍する職場として有名で、日本で初めて女性の取締役が出来た女性が憧れる人気の会社だが、ある問題を抱えていた。それは、女性が頑張るけど辞める人も多いこと。会社から辞めた人に理由を聞いたら、色々理由はあったけど、突き詰めると辞める理由は二つ。一つは、「忙しくて仕事をやってもやっても終わらず追われて大変。頑張っても楽にならずにどんどん大変になって、先が見えないことが怖くなった」、もう一つは、「ある日突然、頑張ってもこんなもんだと先が見えてしまい、前へ進む力がぬけてしまった」というもの。

働いている人も、ひきこもり当事者・家族も頑張っているけど、先が見えず「希望」が持てない。反対に「希望」が持てるとはどういうことか。先が見えないと思いが

ら、ほんのちょっと何か見えている、暗闇で大荒れの航海中に見える灯台の灯りのように、はっきり見えなくても、何かだけは見えていれば、所詮こんなもんだなと思っても、「本当に面白いことはみえてないかもな、見えるまでやってみようかな」と思える。「希望」とは、見えているようで見えていない、見えていないけど見えているものではないか。

2005年にニートの本を書いた。働くことを色んな理由で諦めたり、意欲のない若者がいるんだなと思った。彼等には、何かぽっかり抜けている、色んな意味で「希望」が抜けているのではないかと考えて、希望学を研究している。

あるお寺に「希望」についての講演の依頼を受けて行った。終了後、住職の方から「新鮮な思いで聞いた」と言われた。新鮮とはどういうことか尋ねると、「浄土真宗のお経の中には、希望と言う言葉は一度も出てこない」と言われた。南無阿弥陀仏と日々唱えていると極楽浄土へ行ける、今生きていることが有りがたいこと、生きていれば極楽浄土へ行ける、だから「希望」は持たなくても大丈夫ということだった。なるほどなあと思った。その後、禅宗でも、「希望」について話す機会があった。そこでも、「禅にも希望はない」と言われた。禅の本質は捨てる、無になる、それが究極の理想。何を捨てるかということ、己を捨てる、欲を捨てる。だから、「希望」は持つべきものではなく捨てるもの、持とうとするものではないとのことだった。仏教の世界では元々ない、あればいいくらいのも。無いからと落ち込むことはない、無くてもいい。一方、キリスト教では、「希望」は大事、「愛」・「信仰」・「希望」が一番大切なものと聖書に書いてある。イスラム教でも、「希望」はとても大事らしく、女性の名前に日本語でいう「のぞみちゃん」が多い。

「希望」について話をしたい。「希望」って何だろうと考えるときに似たようなものについて考えてみよう。「希望」の隣、友達のような言葉に、「幸福」という言葉がある。似ているけど、違う所もあると最近すごく感じる。「幸福」と思って何を望むか。「ああ、もうちょっとこの瞬間が続いてほしいなあ」と思う。「希望」は、続いて欲しいというより、変わりたい、変わってほしい、今よりもうちょっと変えたい、良くなりたいと思うときに出てくる。では、「希望」と近いかもしれない「夢」との違いは？近い、同じと感じる、人それぞれだと思うが、私は、少し違うように思う。「夢」は無意識で見るもので、見たくて見ることはあまりない。「夢」という言葉が好きな方々がいる。例えば、会社社長は新入社員に「夢を持ってください」、スポーツ選手は子ども達に「夢を大切にしてください。夢は、必ず叶いますから」と言う。何でこのような言葉が出てくるのか。「あれをやりたい」、「こういうことをやりたい」、「こんなことをして楽しんでもらいたい」、「叶えたい」と考えて無意識に自然に湧き出てくる言葉が「夢」。

言葉と言葉の新しい関係を研究している人に会った。その人は、日本で一番古い毎日新聞の明治時代から今までのデータをパソコンに入れて、言葉と言葉の関係を見つけて仕事をしている。その人に、「希望」と深くつながる言葉は何かを尋ねたら、最初に出てきたのは、「希望」とは全く関係のない言葉で、とても驚いた。それは、「水俣」という言葉。熊本県の水俣市の「水俣」。行ったことのある方もおられると思うが、私も一昨年初めて行った。海沿いのとてもきれいな町。食事も美味しくて、人も優しく穏やかでとてもいい所。最近、環境首都と国も認めている。ごみの分別収集を全国で最初に始めたのも「水俣」。今は、ごみを20から30種類に分けて、環境問題に取り組んでいるすばらしい町。でも、「希望」と深くつながる「水俣」は、そういったきれいな町ではなく、昔からテレビや新聞、教科書などで皆が知っている水俣病の「水俣」で、「希望」より絶望や失望という言葉をつつと想像したくなるような、過去の歴史を

背負って今もなお苦しんでいる町。意図していないことで病気になったり、亡くなったり、全国から色んな偏見や差別を受けた厳しい状況を経験した町。水俣に行くと、確かに「希望」という字を見かけることがある。先ほど、「夢」は無意識に見る、自然に湧き出るものと言ったが、「希望」は意識して持とうとするもの、お先真っ暗で何も無いという時にそれでも何とかなると信じて持とうとする。厳しい状況の中でこそ、人は「希望」を必要とし持とうとする。それが、「水俣」に「希望」だった。

「希望」という言葉は、1995年の阪神淡路大震災の後も頻繁に使われ、2011年3.11以降も「絆」という言葉とともによく耳にしている。「こんな状況だけど希望は失わずにいたい」「子どもの笑顔が今の希望」などと使われることが多い。過酷、困難、むしろ厳しい状況だからこそ、ほんの少し変えていきたい、今の苦しみを少し和らげていきたい、そんな時、人がふっとつぶやく言葉は「夢」より「希望」が多いように思う。厳しい状況からほんのちょっとでも楽になりたい、誰かを良くしたいという時に出るのは「希望」。先程、仏教には「希望」はないというような少し失礼ともとれるような話をしたが、本当は仏教にも「希望」があると思う。宗教は、人の苦しみを悲しみを前提にしている。人は、いつも楽しいことばかりじゃなく、むしろ苦しい中で生きている。その中で、先が見えなくても大丈夫、今を一生懸命生きてればいいんだよ、何かを望むのをやめてもいいんだよ、そういう考え方が仏教。苦しくても「希望」があるから大丈夫だというのが、キリスト教やイスラム教。苦しい中でも、人は、今を一生懸命生きる中で「希望」を持とうとするし、持ってもいい。

冒頭に希望学を研究し始めたのは、ニートの人達には、「希望」がないように感じたという話をしたが、今は少し考えが違う。ニート・ひきこもりの人は、今の状況で幸せという人が居るかもしれないが、少ないのではないか。ほんのちょっと楽になりたい人が、多いのではないか。苦しい状況にある人達は、「希望」をどうやって見つけたらいいかわからないから苦しんでいるのでは。特別な存在と思われがちだが、皆が抱えているものをぐっと凝縮して表れているのが、ニート・ひきこもり。皆、「希望」が持てなくて苦しい。

高校や中学校から、「希望」について話をしてほしいと、呼ばれて行くことがある。そのような高校は、進学校ではなく、どちらかという、指導が難しい学校。家庭の事情で進学する人がほとんどいなくて、こんな時代だから正社員になる人もごく僅かで、卒業するとフリーター・ニートになる生徒が圧倒的に多い。学校の先生からは、「うちの生徒達は、将来に希望なんて持っていない」と聞く。そうだろうなあと思う一方で、本当は「希望」を必要としているのではないかと思う。苦しい状況で、それでも生きていく中でどうやって「希望」を持ったらいいかわからないから苦しい。そんな時、私は、生徒達に、「希望は作れるよ、今からどうやって持てるか言うからね」と言う。「希望は四つの柱から成り立っている。家も4本の柱で建つ。次の4つがあれば、必ず持てる、作れるよ」と言う。Hope is a Wish(直訳では、願望・祈りと訳せるが、「気持ち」と考える) for Something(何か、自分にとって大切な何か) to Come True(叶う) by Action(行動することによって)。まずは、「気持ち」。スポーツ選手は、「ここまで来ると気持ちです」と言うが、それが、あやふやだと言う人もいるけど「気持ち」は、やっぱり大事。何かに対する「気持ち」。何でもいい。それを自分で見つける。「この世から戦争がなくなしてほしい」という大きなものでも、「家族が、毎日三度ご飯が食べられますように」ということでもいい。どれも大切な Something。「与える」、「教えてくれる」のではなく、自分自身で見つけられるし、決められるもの。「大切な何か」を自分で決めることができるのが「希望」。そして、Come True(実現)。叶うんじゃないか、叶うことを諦めない、実現の可能性ゼロじゃない。どうすれば実現できるか、色んな人に聞いたり調べたりして実現を諦めない。もう一つは、by Action(行動する

こと)。「気持ち、大切な何か」「実現に向かおう」と思っても、「動く」ことがなければ希望の家はなかなか建たない。やっぱり、動き出すことがとても大事。「希望(Hope)」は、自分にとって大切な「Something(何か)」を絶対に「Come True」するんだという強い「Wish」だ。講演で「希望がない、見つからないのは、4つの柱のどれかがみつかってないかもしれないね」と生徒達に投げかけると、「自分にとって一番大切なSomethingを考えたことがなかった」という子もいれば、「Somethingはあるが、最近の自分はActionが足りなかった」とか皆考える。

厳しい状況にあっても「希望」は作れる。人間にはその力がある。「希望」を与えるという表現はあまり好きじゃない。Somethingは、一人一人違うし行動も違うから与えられたいと思っているのは怖い。与えられるのではなく、自分で作ること、それを応援することはできる。20世紀最大の政治家は誰かという話になった時、ドイツのヒトラーだと言う人がいた。「希望を与えるんだ」とすごいリーダーシップをとったが、どんな結末を迎えたかは皆さんご存知のとおり。「希望」は、与えなくても自分で作れる。それを応援する、支えあう関係が大切。一人一人、自分の「希望」が作れる。一人では出来ないから周りが支えている。

一つ、とても好きな話を紹介したい。ニートの青年が踏み出した話。彼は、高卒後進学せず、家にずっとひきこもりに近い状況で居た。ある時、これじゃだめだと思って、今のサポステのような機関に相談に行った。雑談の中で、「好きなことある？」と聞かれ、「別にない」と答えた。「好きだったことは？」と聞かれ「実はある」と返した。何もしないでいる理由は、小さいときに好きだったそれに関係していた。本気でプロ野球選手になると信じて、小学校から高校まで野球づけの生活を続けたが、無理だという現実を突きつけられ、夢が大きかった分、ショックが大きく、力が抜けてしまった。今は、苦しい。スタッフが、「何で好きになったの？」と聞くと、理由はあった。「テレビで野球面白いなあ」と思って自分もやって楽しくて、テレビや新聞のスポーツ欄も見ていて、ある日「プロ野球に連れていってやろうか」と親に言われ、一緒に見に行った。初めていったプロ野球、緑の芝生がきれいに整備されていて、その上にテレビで観ている選手達が居て、「格好いい、俺も絶対なる」これが全ての始まり。スタッフが「すごく覚えているね、目に浮かぶようだった」「芝生をきれいに整備している人ってすごいね、誰がやってるんだろう」と言った。その時、地元での就職を探していた女性が、近くでその話を聞いていて、「近くに芝生の会社があるみたい」と言った。その後、彼は、振り返ってみた。今も苦しい、なぜ苦しいのか、そして野球好きだからこんなに苦しいと認めてしまう。そして、「野球が好きだから野球選手になる」という考えはちょっと違うと考え直した。しばらくして、彼は、相談の場を再び訪れて、「生まれて初めて就職してみようと思う。芝生の管理販売の会社に」と言った。調べると求人はあったが、すでに他の人が内定していた。スタッフが、「すでに決まっているけど、意外と追加があるかも。だめもとで電話してみたら」と勧めると、「何て言ったらいいか分からない」と言う。スタッフが「電話して、俺は芝生が好きだ！って叫んでみたら」と勧め、電話した。一生懸命話をしたら、会社から「一度来い」といわれ、見習いで働けることになった。会社の人に、「明日から来てもいい、あれ持って来いよ」と言われ、あれとは何か聞き返すと「運転免許に決まってるだろ」と言われた。青年は、その後、運転免許も取っていった。彼は、自分一人で「希望」を作ったわけではなく、皆で作った。上手に支えてくれる人がいたからこそ踏み出せた、支えあうことが大事。

逆に「希望」を持たない人は、孤独、寂しい状況にある人が多い。何とか孤独、一人にしないことがとても大事。「希望」について、日、韓、仏、米で調査し分析した。他国と比べて、日本は「希望」のない傾向が強く、仕事の有無が「希望」に大きな影響を与えていた。国によって影響を与えるものは異なるが、その中でどの国にも、「希望」

と深く関係するものが一つあった。それは、信頼。信頼してくれる人がいる、いないと「希望」の有無はすごく関係していた。どんな状況でも信頼してくれる人が居ると「希望」が持てる。信頼してくれる人が居ないと「希望」を持つのが苦しい。子どもの頃に、大人から信頼された記憶のある人は「希望」が持てる。信頼された記憶のない人は、「希望」がなく前へ向く力がでてこない。信じられる人がいることが「希望」には大事。

3.11以降、「希望」と「絆」という言葉がよく使われている。「絆」は、英語でバンド、タイと訳される。「絆」には、社会学でも色々な研究があるが、少なくとも二つある。ストロングタイズ(強い絆)とウィークタイズ(弱い、緩い絆)。ストロングタイズは、家族や地域の絆、支えあって日々励ましあって生きている。ウィークタイズは、毎日会うような関係ではなくたまに会う人との絆。この二つは、どちらも大切。ストロングタイズは、声に出さなくても安心する、損得関係なく存在をまるごと受け止めてくれるもの。ウィークタイズは、自分と違う世界の人だし、同じ地域に居るような安心感がなく、多少ぎくしゃくあるかもしれないが、「へーそういう世界あるんだ」と発見や気づきを与えてくれやすい。「希望」につながるのは実はウィークタイズ。失敗体験や成功経験、知恵を持っている人と緩くつながること、こういう方向に自分もつながっていくことがあるかもしれないと思うことが、「希望」につながる。

岩手県釜石市に震災前から関わっている。地域の中で緩い繋がりを大切にしてきた人、たまに会って話をする関係を大事にしてきたことが多い人程、厳しい状況からの立ち上がり早い。今まで、日本社会にはストロングタイズが大切という傾向があったが、これからは緩くていい、緩いくらいの方がいい。自分と違う世界の人と、緩くつながることが大事。

釜石で、震災前から地域のために頑張っている八幡さんという80歳の男性がいる。

ある時中学生が、「八幡さんは、苦しい中でも夢を捨てずに頑張っている。今の八幡さんの夢は何ですか？」と聞いたら、八幡さんが、照れくさそうに毅然と言った言葉が忘れられない。彼は、「夢はあるよ。夢を持ったまま死んで行くのが夢なんだ」と言った。カッコいいと思った。「夢」みたいな叶わないものを持ってても意味がないと言う人もいるかもしれないが、私は、八幡さんから「夢」や「希望」を追い続けていくことが尊いことだと学んだ。

私の好きな言葉に「まんざらじゃないよね」というのがある。成功ばかりしている人が使うのではなく、むしろ大変な苦しいことを経験した人が、振り返ってみると人生にムダなことはなかったという時に使うことが多い。ある時、講演で「これから、この言葉を大事に使っていきたいと思う」と言ったら、終了後、3人組の女性が近寄ってきた。3人は、「さっき、まんざらじゃないという言葉を使いたって言ったね」と言う。3人は、ゴルフ場でキャディーを30年間している仲間で、「18ホールは人生を見るようだ」「色んな人がいて社会的に有名な人でもまんざらじゃないなあって思う人もいるし、態度や仕草から修羅場を経験され人生過酷だったろうけどまんざらじゃないなあっていう人もいる」と言う。「そんな中でわかったことがある。まんざらじゃないという言葉を使ってもいいのは60歳過ぎてから。まだまだだね、がんばんな」とポンポンと肩を叩かれた。皆で、「夢」を持って「まんざらじゃない」といえる大人になっていくことが、若者にとっても皆にとっても「希望」の持てる社会ではないかと思う。



(5) 行政局講座 (中辺路地区)

- 1 . 参 加 者 33 名 (ひきこもり検討委員 ・ 事務局 10 名含む)
- 2 . 日 時 平成 24 年 9 月 26 日 (水) 10 時 00 分 ~ 11 時 30 分
- 3 . 場 所 中辺路行政局
- 4 . 内 容
 - (1) 開会のあいさつ
 - (2) 田辺市のひきこもり支援ネットワークを支えている関係機関から
 - (3) 閉会のあいさつ
- 5 . 配布資料
 - レジュメ
 - ハートツリー案内ビラ
 - はあと&ハート
 - 南紀若者サポートステーション リーフレット
 - 共生舎 リーフレット
 - 田辺市ひきこもり相談窓口案内ビラ
 - 田辺市ひきこもり啓発講演会ビラ

6 . 内 容

【あいさつ】(ひきこもり検討委員会 委員長)

【ネットワークを支えている関係機関から】

〔ひきこもり相談窓口〕(資料参照)



ひきこもりとは？

『様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交友など)を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。』

厚生労働省から出されたひきこもりの定義です。簡単にまとめると、6ヶ月以上社会参加していない。外に出ているも対人関係がない。未治療の発達障害や統合失調症の可能性もあります。

精神科医療の支援が必要となるケースもあります。

ん出ています。保健所の相談件数は、平成 21 年に 321 人だったのが、平成 23 年度は 132 件と関わるケースが減っています。

ケースについては、他の機関と連携をとりながら関わっています。

田辺保健所勤務は、8 年目になります。病気の見え隠れの相談など、思春期、青年期、老年期の認知の方などの相談も受けています。対象者は、中学生から 70 歳前くらいの方になりますが、年々相談の中身が変わってきています。病気を呈してではなく、精神科の医師でも病気として診断のつきにくい、今までの人生で培われてきた中での生きづらさからひきこもるという方も居ます。病気ということ、薬や医療だけで事を始めるだけではないケースが多くなっています。

関係機関や民生委員さんなどの力を借りながら地域で支援をしてもらわないといけないというケースも多いです。

なぜ、この年齢でと思うこともあります。中学、高校から見えなくなっている本人の実像、どうして介入できなかったのか。自分を否定的に捉えて、生き辛さを背負わしてしまう。必死に生きよう、生きたい。勇気をもって社会から離れよう。学校、親、兄弟などから離れる。そういう状況をひきこもり、ニートと表現されます。

本人とは、なかなか会えないが、実際会った時のエネルギーはすごい。自分の取り戻しに時間がかかる。連携を繋ぎながら色んな人の心のケアをしていければと思います。

関係者との連携が必要です。

また、地域の中で繋がっていただけるか、声かけをしてもらえるかが重要です。

藤藪 庸一氏は、「おはようございます」から始まるすべて、声かけと気づきとされています。

地域の中の民生委員さんにもご協力をいただければと思います。

地域で感じられた事を関係者に届けてもらえたらと思います。

〔ハートツリー〕

ひきこもり者社会参加支援センター事業をとり、15～40 歳までのひきこもり状態の青年らが安心して来られる居場所を心がけています。

平成 21 年度から、嘱託医、専門家などによる月 1 回の会議を開いています。支援計画の検討などを行っています。

利用者は、通所が 4 名、登録が 5 名、体験で 2 名です。通所者の内、2 名は卒業を考えておられます。

利用者の年齢は、下は 17 歳から上は 35 歳です。長く利用された方は 2 年、過去には 8 年利用の方もおられました。

体験は、最長 3 ヶ月出来ます。最初は、おそろおそろ、挨拶出来ず無言で、慣れてくると小さい声で挨拶してくれます。

居場所の部屋は、2 階にあり、自由に過ごしています。テレビやゲーム、本を読んだり、勉強をしたりしています。

イベントは、皆で考え毎月太極拳をしたり美術館へ行ったりしています。

出来れば運動もしたいと言っています。

月 2 回、お菓子作りもしています。花つぼみさんのイベントや地域のイベントにお菓子を持って行って販売もしています。少しずつ社会の風にあたっていけるようにしています。

半年くらいで何がしたいというのが出てきて、社会体験に出かけたりします。社会体験は、一般の事務所、個人の事業所、花つぼみの作業などに行きます。団子つみや梅拾いは工賃も出してくれます。働く力になります。梅拾いは、ほとんどのメンバーにとって大きな変化に繋がる体験です。続けていくのが目標なので、体験は 3 時間ほどです。

支援は、とても長い道のりです。利用者は、考え方、プライド、社会からひきめを感じている。一般的にはこう、出来ていない自分、あかんなと思って出にくい。ハートに出てくるが、自分自身と葛藤している様子が窺える。

ハートは、入所時、精神科医の診断が必要です。精神の病気であると支援の対象外になります。そのような場合は、本人にとって負担のないところでという事で、他の施設を紹介させてもらいます。

平成 19 年～平成 23 までに 14 名が通所で、12 名が退所しています。内訳は、診断を受けて他の支援機関に 6 名。アルバイトなどを始めたのが 2 名。進学が 1 名。在宅が 3 名です。

今通所している 4 名は、ハート以外に行く場所があります。小学校から不登校で通信制にいった方は、自分と葛藤しています。小学校で嫌な思いをしたので、学校はと言っていたのですが、後押しする事で、頑張っています。

以前は、ハートと病院だけと言う方も多かったです。

アルバイトでは、郵便局の仕分けなどが良いようです。他の人と話をしなくても良いからです。

最初、医師にかかっていない人もいます。ハート利用には医師の診断が必要なので、受診を勧め、通院でしんどさを聞いてもらうことが出来ています。

精神科、役所へ行くことに抵抗がある方もいます。使える制度、医療費の控除など、少しずつ壁を低くするようにと考えています。

甘えていると思っている人も少なくないと思います。なぜ、甘えたらあかんのかと思います。確かに、少し甘えている部分もあると思います。ひきこもることは、悪い事ではないです。傷つけないためにひきこもります。

理由を探しても過去には戻れません。本人は嫌でも、過去の話話を話してもらいます。または、文章で書いてもらっています。うまくいかないのが人生。得意なこと、想像力、発想力はあるけれど、発揮できていない。スタッフと一緒に発揮できるということもあります。

スタッフは友だちではありません。スタッフは、人間どうし適切な距離で支援をしています。

〔南紀若者サポートステーション〕

NPO 法人ハートツリーが母体です。

居場所からの次のステップ、就労、アルバイト、履歴書の空白。面接にいくと言葉が出ない。次のステップに進もうとした時の手助けをする場所です。

国の施策の地域若者サポートステーション事業の委託を取って、運営しています。

平成 23 年、不登校、ひきこもり等、社会参加が困難な方への訪問支援は、70 名でした。1 年で述べ 611 回、平均すると 1 日に 2 件くらい行っていることになりました。

南部から紀南が対象です。田辺市の訪問は、すべてひきこもりではないですが、26 名です。

田辺の推計が、127 人、訪問に行っている人は 10 名ちかくです。田辺市の推計から考えると 10 分の 1 くらいしか支援が届いていないと思います。

今年度、4～8 月、訪問が 356 回、月 50 件くらい訪問に行っています。

発達、知的、精神の疾病の疑いがある方も居ますが、病気等の受容をしていない方もいます。若者の支援ということで相談を受けています。

ひきこもりの問題が、社会的問題か、医学的問題かという話もありますが、こだわる必要がないのではないかと思います。

何らかの不安、課題があるからひきこもる。身を守るため。保健所や市と連携して、より良い支援を提供していくことが大事です。

今年度、文部科学省の事業で、高校の不登校生徒の支援をしています。高校中退の方、その後、繋がっていません。中卒後、進路未決定の方もいます。

田辺市の適応指導教室と連携して、9名の生徒を引き継ぎ支援しています。全員、同行訪問をしています。3名がアルバイト、4名が進学の方へ繋がる支援をしました。

学習支援授業もしています。通信に通っている方対象で、週1回、退職教員がボランティアで来てくれて勉強を教えてくれています。

パソコンルームもあり、そこでパソコンの使い方などを教えたりもします。

全国的に、ひきこもりの支援にも力を入れ始めました。都会では、フリースクール、フリースペースなどの居場所がたくさんあります。

紀南とは、状況が違います。紀南は、過疎の地域も多く、地域との繋がりが強いが、周りに隠しがちです。言いにくい、繋がりにくい、独特の課題があります。

そこにどう入っていくか。地域の民生委員さん、学校、保護者、本人に向けてのアピール、アプローチしていけたらと思います。最初は、サポステだけでなく、保健所や民生委員さんと同行訪問させてもらったりしています。

〔共生舎〕

現代社会では、いろんな課題を持った人が増えています。

田辺市のひきこもり対策は、全国でも1、2位の実績をあげています。

政府は、来年度、若者サポート支援センターを、24箇所増やそうとしています。

私は、田辺市で教師をした後、堺で教師をしていました。その後、木守に8人連れて帰ってきました。今は、130名になっています。職員は120名です。

その後、自分のやりたかった共生舎を作りました。山の中、自然一杯、不便ですが、一軒家の空き家で、一緒に色々な立場の人と生活できたらと思っています。

理念は高いのですが、開店休業状態です。

今は、3名が、月に2、3度、米を作りに来ています。

畑などをしながら、ひきこもりの人を含め、違う立場の人も入って、数名で生活していければと思っています。人は、それぞれ長所、短所を持っていますが、お互い個性を認めあい、助け合って生活していければと思っています。



田辺市ひきこもり検討委員会（平成24年度）議題

（出席者はひきこもり検討委員の人数）

<p>第1回（H24.4.28）出席者20名</p>	<p>第2回（H24.10.27）出席者22名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市のひきこもり支援について 平成23年度事業報告 平成24年度事業計画 ・その他 ハートツリーの紹介 南紀若者サポートステーションの紹介 かたつむりの会の紹介 共生舎の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市のひきこもり支援について 平成24年度上半期事業報告 平成24年度下半期事業計画 ・講演 「田辺市適応指導教室とスクールソーシャルワーカーの仕事の紹介」 田辺市教育研究所 山本 隼太 氏 ・関係機関からの報告
	

小委員会（平成24年度）議題（出席者はひきこもり検討小委員の人数）

<p>第1回(H24.5.10) 出席者10名</p>	<p>第6回(H24.11.8) 出席者5名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の退学・休学調査について ・行政局講座について ・支援の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度 講演会について ・平成25年度 講演会について ・行政局講座について
<p>第2回(H24.6.14) 出席者9名</p>	<p>第7回(H24.12.13) 出席者8名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・支援の報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 講演会について ・行政局講座について ・委員選出について ・ひきこもり支援（冊子）について
<p>第3回(H24.7.12) 出席者10名</p>	<p>第8回(H25.1.10) 出席者6名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・高等学校の訪問結果について 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の報告 ・ひきこもり支援のPRの方法について ・ひきこもり相談窓口の現状と課題 ・ひきこもり支援（冊子）
<p>第4回(H24.8.9) 出席者8名</p>	<p>第9回(H25.2.14) 出席者9名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・第2回ひきこもり検討委員会について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり支援PR用パワーポイント作成について ・ひきこもり支援（冊子）について
<p>第5回(H24.9.13) 出席者5名</p>	<p>第10回(H25.3.14) 出席者8名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会について ・第2回ひきこもり検討委員会について 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の報告 ・田辺市ひきこもり検討委員改選について ・平成25年度計画について ・平成25年度ひきこもり検討委員会（大委員会）について
	<ul style="list-style-type: none"> ・田辺市ひきこもり支援（窓口開設12年目の報告）について

(7) ひきこもり検討委員会 講義

「田辺市適応指導教室とスクールソーシャルワーカーの仕事の紹介」

講師：ひきこもり検討委員 田辺市教育研究所 山本 隼太 氏

日時：平成24年10月27日(土)

参加者：31人(事務局含む)

講演内容

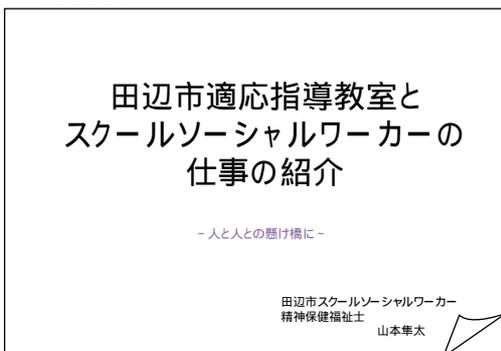
4月に神奈川県川崎市からきました。

SSW(スクールソーシャルワーカー)として和歌山県の教育委員会に採用されました。

横浜で学童保育、児童デイサービス、健常児と障害児と一緒に放課後の預かりをしているところの指導員を3年していました。

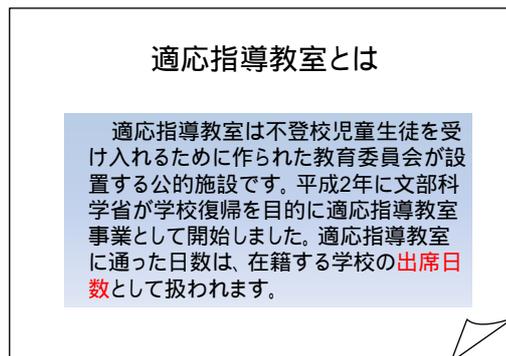
SSWの仕事は、年間324時間と限定されているので、1週間に1日の仕事になります。その他の日は、田辺市の適応指導教室で仕事をしています。

《内容》



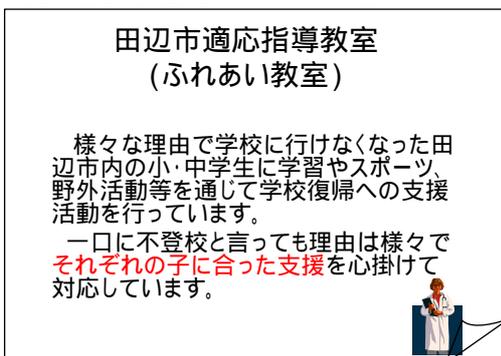
人と人との架け橋にというのは、学校と保護者、関係機関と仲をつなぐということです。

SSWは、社会福祉士か精神保健福祉士の資格を持っている人が多いです。



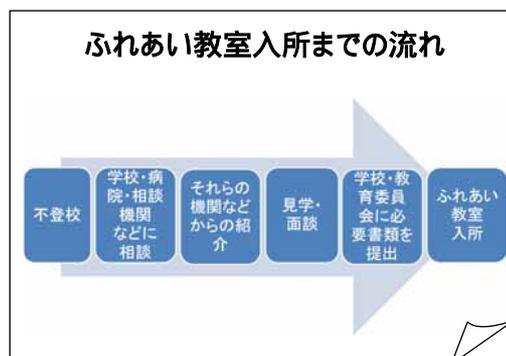
通所してくると、学校の出席日数にカウントされます。

適応指導教室は、全国にあります。運営には、決まりはありません。それぞれの場所でやり方、開所時間が違います。



不登校の理由は、勉強がネックになったり、友達関係だったり色々です。

一人ずつ、学習の内容を変えて、マンツーマンに近い支援を目指しています。



必ずしもこの段階を踏むわけではないですが、多くがこのような流れになります。

現在の状況 H24.10.27現在

在籍者数 **15名** (中学生12名 小学生3名) (男9名 女6名)

開所時間 **8:30~17:00**
 子どもたちの通所時間は基本的に9:30~12:00か13:00~15:30のどちらか一方

指導員 常勤指導員**3名** 非常勤指導員**1名**
 その他にゲストティーチャーやボランティアの方数名に来ていただいています。

時間は、小学生から中学2年生と中学3年生の2つに分けています。

月ごとに交代して、行事、遠足等は朝から夕方まで一緒の時もあります。

ゲストティーチャーは、退職した先生などが調理実習やミシン、卓球教室などに来てくれています。

ボランティアでドックセラピーの方が来て、犬とのふれあいなどをしてくれたりもします。

不登校の主な理由は、大きく4つあります。

子どもへの関心の薄さというのは、朝、声をかけない。夜、ほったらかしている。食事を用意しないなどというネグレクトのような場合もあります。

多くはないですが、親のほうが学校へ行かなくてもいいというような場合もあります。

学習面は、積み重ねがないので、中学校で座っているのが苦痛。学習障害などがあり、本人の意志とは別に特定の教科ができない。数学ができない、文章を同じところばかり読んでしまうなどということもあります。

コミュニケーション能力の低さについては、ほとんどの子に当てはまります。友との関係も上手くいきにくいです。

気分の浮き沈みがあり、うつ的な子もいます。

起立性調節障害で起きられないという子もいます。ちゃんと寝ているのに起きられない。さぼっていると思われてしまう。融通がきかない、適当でいいところが曲げられない。

遅刻してはいけないという思いがあり、途中から行けない。

遠足に出かけたりします。バスにみんなで乗る経験がない子も多いです。

座学の機会がないので、ゲストティーチャーにも来てもらいます。理科の授業をしてもらったり、調理実習をしてもらったりします。調理実習は、男の子が好きだったりします。

卓球は、運動経験の乏しい子も多いので、いい経験になります。

犬セラピーは、犬と接する機会として貴重です。

今年度の活動記録

- ヒキ岩餅
- かわべ天文公園
- 日帰りキャンプ
- 卓球教室
- 調理実習
- 犬セラピー
- ゲストティーチャー授業

子どもそれぞれの支援は、団体の中では難しく、個別の対応が必要になります。

大学生などを集められないので、ボランティア不足です。

場所が市役所の裏で、遠くの子の通所が難しいです。

ここから学校に戻るとき、急に教室へは難しいです。保健室で対応してくれれば良いのですが、慣らしながらという中間的な場所の確保が難しいです。

不登校の主な理由

- ・**養育環境の問題**
(子どもへの関心の薄さや保護者の学校に対する不信感など)
- ・**学習面の問題**
(学習経験の乏しさ・学習障害)
- ・**精神的問題**
(コミュニケーション能力の低さ・気分の浮き沈みなど)
- ・**その他**
(不規則な生活リズムや病気など)

課題

- ・それぞれの子どもへのニーズに対応するための人員(ボランティアを含む)不足
- ・経験豊富な指導員の育成
- ・保護者との関係づくり
- ・田辺市に適応指導教室が1つしかなく、遠方の子の利用が難しい
- ・学校の教室とふれあい教室の中間(保健室や個別対応してくれる先生)の確保が難しい

スクールソーシャルワーカーとは

2008年度から文部科学省が**スクールソーシャルワーカー活用事業**を開始。
さまざまな理由から生きづらさを感じている子どもの環境に働き掛け、問題の解決を目指します。家庭・学校・関係機関との連携を図り活用します。

和歌山県には、SSWが14人います。
田辺市には、一人です。今は、周辺の小中学校くらいしか行けてないです。

田辺市スクールソーシャルワーカー

2012年度より派遣型スクールソーシャルワーカー(SSW)として、田辺市44校の小・中学校を対象に一人配置されることになりました。
また適応指導教室指導員を兼任していることが特徴です。

スクールソーシャルワーカーと適応指導教室指導員を兼任している利点

多角的なものの見方が出来る

・田辺市適応指導教室は中学校長を総務した所長・心理の専門教育を受けた指導員・スクールソーシャルワーカーを兼任している私の3人の指導員があり、それぞれの立場から色々な意見を聞くことが出来る。

関係機関や先生方と接する機会が多い

・適応指導教室の行事や通学生の話などで、関係機関や担任の先生・校長先生など話す機会がSSWを専任しているよりも多い。

支援対象となる児童と接する機会を作れる

・SSWは環境に働きかけることが主な仕事となるため、**支援現場と直接接する機会**が少ないが、同じような困り感を抱えた子どもたちとふれあひ教室で関わることにより、生きにくさを肌で感じることが出来る。

3人の支援員がいて、一人は学校長を経験しているので、学校の仕組みを聞くことができます。心理の勉強をしている人もいるので、心理面の相談もできます。

関係機関や先生と関係を築くときに、適応指導教室の業務の中で話す機会が多いというのも利点です。

環境を整えるというのが仕事なので、本人、保

護者と会う機会が少ないです。適応指導教室で、話を聞いていると肌で感じる事ができます。

まずは、学校回りをしてSSWの仕事の内容の説明に回っています。

現在までの活動内容

- 対象児童の教室訪問し対応の方法を先生と相談
- 学校に不信感がある保護者との面談
- 社会資源開拓のため関係施設訪問
- ケース会議への参加
- SSW周知のための学校訪問

課題

- ・対象の**学校(44校)**が多くなかなか遠方まで行くことが出来ない
- ・SSWの認知度が低く、仕事内容あまり理解されていない
- ・**実績**が見えにくく評価されにくい
- ・先生方・関係機関との信頼関係を築くのがむずかしい
- ・保護者に耳を傾けてもらうのがむずかしい

SSWが居ると知っているが、何をしてくれるのかわからないと言われる。直接生徒と会うのではなく、先生や関係機関と一緒に解決法を探

るのが仕事。支援の過程、気持ちの変化は数値に表れないので、実績が評価されにくい。

対象数が多いので、1つのケースにたくさん行けない。何度も会えないので、信頼関係を築くのが難しいです。

学校と保護者の意見の食い違いもあり、中に入ってすり合わせしてという依頼もありますが、難しいです。

支援する環境を作る仕事ですが、現場の子と会って肌で感じたいと思っています。

今後に向けて

- ・子どもたちを焦らず見守り、進路を含め**将来を見据えた支援**をしていきたい。
- ・SSWでは出来る限り対象者と会い、関係者と密な連携を取り少しでも多くの子どもの支援が出来るよう取り組みたい。



- 3 . 田辺市ひきこもり相談窓口担当者感想

『ひきこもり相談窓口1年を終えて』

ひきこもり相談窓口担当 中西 孝美

過ぎてみるとあっと言う間でしたが、日々「これでいいのか、どうしていったらいいのか」と悩みつつ過ごしたように思います。ゆっくり時間をかけて、長期間に渡りお話を聞くということも今までにはない経験でした。学生の頃、「傾聴する」ことの大切さを幾度となく聞いたことを思い出し、相談の中で「耳を傾ける」ことが出来れば次へつなげることができるのではないかと、私に何が出来るかではなく、相談に来られている方と共に考えていくことができればと思っています。

全国的には、「子ども・若者支援」として、ひきこもり相談を含め幅広く取り組む自治体も増えつつあり、他府県からの問い合わせも多い年でした。この12年で取り組んできた支援のネットワークは、先駆的なものとして広く知られ、関係機関の皆さんの熱心な取り組みが続いていることを改めて知ることが出来ました。

この1年間でのたくさんの出会いから学んだことを活かし、次につなげていけたらと思います。

『ひきこもり相談窓口を担当して思うこと』

ひきこもり相談窓口担当 小川 香織

この支援に関わらせてもらって、自分に何が出来るのか、何が出来ているのか、考えることがよくあります。家族会や個別の相談で話を聞かせてもらう中で、自分が親の立場だったら、相談でお話を伺い、一緒に考えさせてもらっていることが実際出来るのだろうか。もしかしたら、近すぎて気づかないこともあるのではないかと思います。

そんなとき、少し違う立場で一緒に考えさせてもらうこと、なかなか他では話をすることが出来ないといわれる家族の方の話を聞かせてもらうこと、安心して話が出来るとあることに意味があるのではないかと思います。私自身、検討委員会での委員さんのご意見や、医師相談で一緒に入らせてもらって話を伺う中で、講演会の中で、また、まったく別の何気ない話の中であっても、なるほどと思いつつ入った言葉は、すぐには出来なくても少しそのことを頭においておくことで自分自身の動きや言葉かけに良い影響を与えてくれることが多いように思います。

お話を聞かせてもらうことですぐに状況が変わるというわけではありません。

ただ、自助会に来られていた方の多くは、色んな体験をし、上手いいかないこと、色んなことを抱えつつも前に進み、時には少し休んだりしながら新たな場を見つけています。また、ほとんどの方が、家族以外の人との関わりを広げられています。

ご家族の方だけが来られている場合でも、ご家族の何気ない日常の変化でご本人さんが外に出られるようになったり、家での様子が変化したりすることがあります。

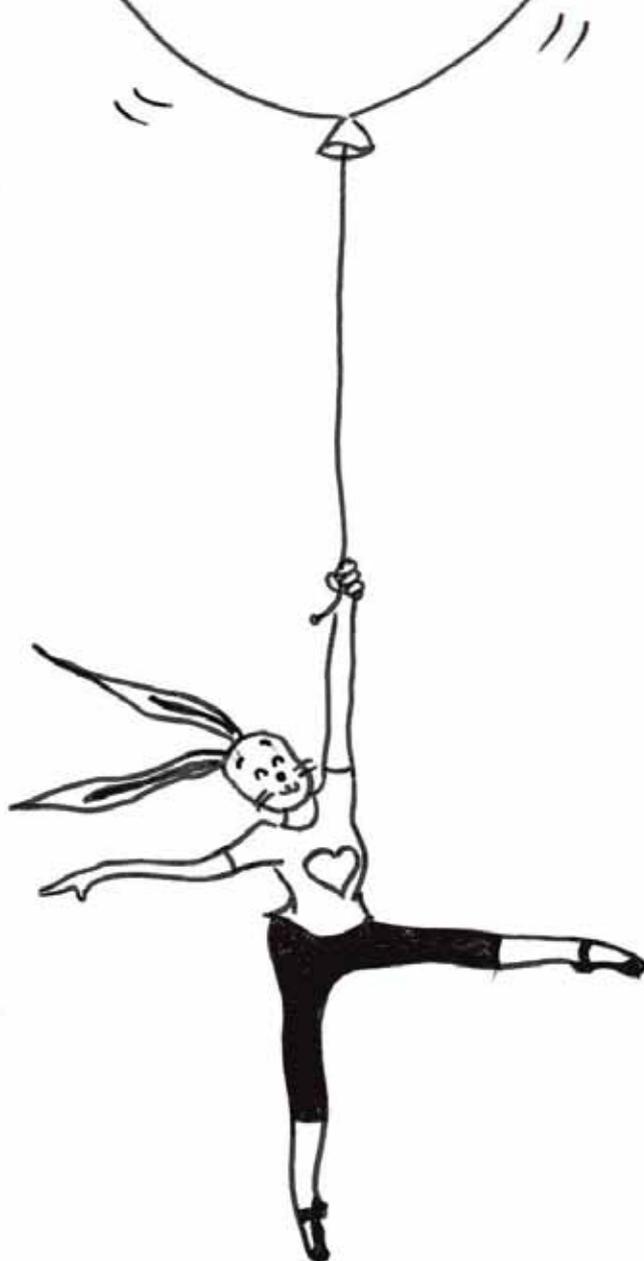
今は、色々な相談ができる窓口や支援が広がってきています。まだどこへも相談に行かれていない方が一人でも多く家族以外の誰かと繋がるのが大事なのではないかと思います。ご本人や家族の方が少し誰かと話をすることでほんの少しでもこころが軽くなる事が出来、次へと繋がれば、そういうお手伝いが出来たら良いなと思います。



. 參考資料



家から こども が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか



ほっこり会
(ひきこもり家族の会)

外へ一歩踏み出したい人、

誰かと話をしたい人、

ご本人、ご家族からの相談を受け付けています。

活動内容
相談・訪問活動
レクリエーション活動
自主製品作り
(クッキー、ケーキ)
社会体験活動
(他団体、企業に参加し、
社会性を養う)

対象年齢
15歳～
40歳までの男女

利用対象
ひきこもり
状態にある
青年

Heart Tree

木々が地に根を生やし
枝の1本1本が広がり
豊かに実ることで
大きくなっていく...
そんな風に心も育っていければ...

ひきこもり青年の居場所

ハートツリー

〒646-0032 和歌山県田辺市下屋敷町98番地

電話 & Fax 0739-25-8308

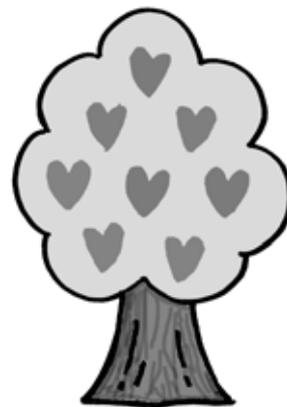
E-mail heart-h@mb.aikis.or.jp

ホームページ <http://www.aikis.or.jp/~heart-h/>

NPO 法人ハートツリーと同じ事務所です。

開所日時 月曜日～金曜日 13時～17時
(スタッフは9時～18時までいます)

休所日 土・日・祝・臨時休所の場合



since 2002



和歌山県・
厚生労働省
委託事業

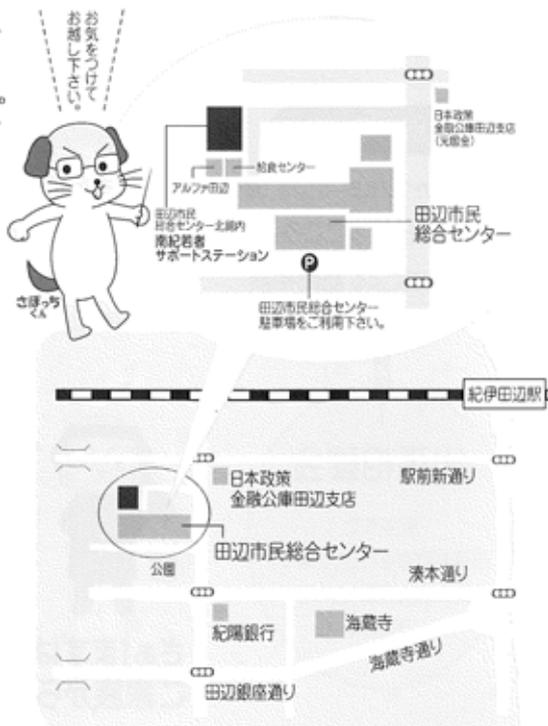
南紀若者 サポートステーション

進学や就労に向けての
悩みを抱える
15歳から概ね40歳未満の方を
サポートします。



利用料
無料

但し、プログラム実施時に
必要に応じ実費を頂きます。



南紀若者 サポートステーション

ご利用日時: 月～金曜/10:00～18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085



携帯サイトへアクセス

【Eメール】nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
【ホームページ】http://www.nanki-saposute.jp/
【携帯サイト】http://www.nanki-saposute.jp/ktai/

南紀若者サポートステーションは

「働くことに自信が持てない」
「対人関係が苦手安定した社会生活を送りにくい」
「何かを始めたいけど、どうしたら良いか悩んでいる」

そんなあなたの **はじめての一步** を応援します!

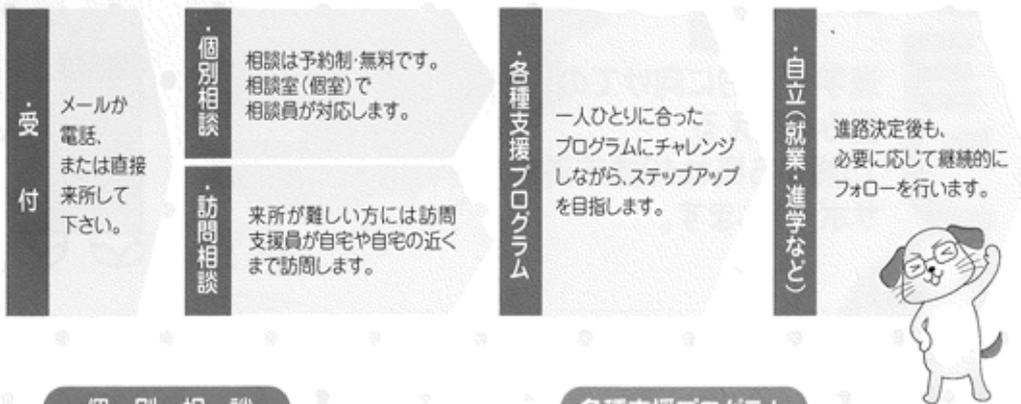


地域若者サポートステーションとは?

厚生労働省は、若者の職業的自立を支援するために地方自治体との協働により、地域の若者サポート支援機関からなるネットワークを構築、その拠点となる「地域若者サポートステーション」を全国100ヶ所(平成22年度)に設置しました。若者やその保護者に対して、専門的な相談、各種支援プログラム、職場体験など、多様な支援メニューを提供しています。

通称
サポステ

サポートの流れ



個別相談

- キャリアカウンセラーによる 働くことに関する相談
- 臨床心理士による こころの相談
- 訪問支援員による 訪問相談

各種支援プログラム

- 職業体験・見学
- ビジネスマナー講座
- パソコン講座・個別指導
- ボランティア体験
- スキルアップ講座
- 地域社会体験
- 保護者セミナー

好評! 出張相談会

新宮市で出張相談会を行っています。詳しくはお問い合わせ下さい。



サポステの安心ネットワーク

南紀若者サポートステーションは、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ!まずは相談してみませんか!
ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。

NPO法人 かたつむりの会

法人本部

住所 〒646-0043
和歌山県田辺市今福町119 中田ビル2F
ワークサポート・いこう内
電話/FAX 0739-25-3888
メール npo.katatsumuri@pearl.ocn.ne.jp



各施設地図



町家カフェ上屋敷二丁目

(障害者就労継続支援A型事業所)

就労の場所です。週20時間以上働ける人は雇用保険にも加入しています。



営業時間 9:00 ~ 14:30 (月曜定休日)
※14:00ラストオーダー

住所 〒646-0036
和歌山県田辺市上屋敷2-6-31

電話 0739-20-5595
メール npo.katatsumuri@iris.eonet.ne.jp



ララ・ロカレ RaRaLocale

(障害者就労継続支援A型事業所)

レトロな元公民館を改装して生まれたパスタとパンのレストランです。

2階はライブや展覧会などのイベント会場として利用できます。



営業時間 9:00 ~ 18:00 (火曜定休日)

住所 〒646-0036
和歌山県田辺市上屋敷2-6-7

電話/FAX 0739-34-2146
メール raralocale@gmail.com



ワークサポート・いこう

(障害者就労継続支援B型事業所)

銀座通りにあるビルの一室です。街なかの、おしゃれな空間で作業をしています。

働くことの土台作りをめざすとともに少しずつ工賃も得ていきます。



開所時間 月~金 10:00 ~ 15:00
(イベントの都合で変更する場合があります。)

住所 〒646-0043
和歌山県田辺市今福町119
中田ビル2F

電話/FAX 0739-25-3888
メール npo.katatsumuri@pearl.ocn.ne.jp



特定非営利法人 共生舎

私共 NPO 法人共生舎は社会福祉法の制度に依らずそれぞれの立場の者がその個性を認め生かし、お互いに助け合って生活していくという理念の下に活動しております。

主な活動

・助け合い

・地区住民間の交流
・都市部の人々との交流
・地域の高齢者の生活援助

・(季節毎の行事、イベント etc)
・(大学ゼミ、子ども会活動、田舎暮らし体験、小旅行 etc)
・(畑起こし、庭の手入れ、草取り 家の清掃 etc)

・個性を生かす

・それぞれの人の個性を生かし助け合って生活する場の提供

・競争・経済至上主義によらない生活活動作りをめざす (オアシス創り)

・自給自足をめざす

・休耕田の活用

・米、野菜作り活動

活動の場

・山あい拠点

田辺市(旧大塔村)面川 510 共生舎 古民家 定員 10 名
(一泊 1,000 円、二泊目以降 500 円 / 食事は自炊)

長野県木曾町開田高原西野 4482 開田山荘 定員 8 名
(一泊 2,000 円 / 食事は自炊)

・街なか拠点

田辺市湊 1006-10 ふれあいサロン 利用料 無料

ただいま活動に共鳴していただける方を求めています

1. 正会員になる。(年会費 5,000 円)
2. 共生舎の PR をしていただける方
3. 上記行事などへのボランティアに参加していただける方
4. 財政的援助をしてくださる方(金額は問わず)

NPO 法人共生舎 田辺市面川 510
(Tel) 0739-62-0651/090-7499-9046

田辺市「ひきこもり」検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 思春期・青年期にある者(以下「青少年」という。)にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

2 委員は次に掲げる関係機関の職員のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社会福祉法人やおき福祉会
- (2) 社会福祉法人ふたば福祉会
- (3) 民間支援団体
- (4) 白浜・田辺青年会議所
- (5) 紀南こころの医療センター
- (6) 精神科医師
- (7) 田辺保健所
- (8) 紀南児童相談所
- (9) 田辺市教育研究所
- (10) 主任児童委員
- (11) 臨床心理士会
- (12) 知識経験者
- (13) 紀南六校代表
- (14) 西牟婁養護教諭研究協議会 高校ブロック代表
- (15) 田辺市養護教諭研究会
- (16) ひきこもり家族会代表
- (17) 当事者代表
- (18) 保健福祉部長
- (19) 子育て推進課
- (20) 障害福祉室
- (21) 商工振興課
- (22) 学校教育課(幼稚園・小・中学校関係)
- (23) 生涯学習課
- (24) 健康増進課

- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

(委員会)

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

田辺市ひきこもり検討委員会【平成 24 年度 委員構成】

	選出区分	備考（選出団体、役職名）
委員長	1 学識経験者	
副委員長	2 福祉関係団体・機関	社会福祉法人やおき福祉会
副委員長	3 民間支援団体	NPO法人ハートツリー 南紀若者サポートステーション
小委員	4 福祉関係団体・機関	社会福祉法人ふたば福祉会
小委員	5 民間支援団体	NPO法人ハートツリー ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリー
小委員	6 保健機関	田辺保健所（精神保健福祉相談員）
小委員	7 医療関係者・団体・機関	紀南こころの医療センター（精神科医師）
小委員	8 医療関係者・団体・機関	臨床心理士会（臨床心理士）
小委員	9 医療関係者・団体・機関	紀南こころの医療センター（臨床心理学博士）
小委員	10 田辺市行政	健康増進課
小委員	11 田辺市行政	障害福祉室
小委員	12 田辺市行政	教育委員会学校教育課
小委員	13 田辺市行政	教育委員会生涯学習課
	14 学識経験者	
	15 民間支援団体	共生舎
	16 青年会議所	白浜・田辺青年会議所
	17 福祉関係団体・機関	NPO法人かたつむりの会
	18 福祉関係団体・機関	紀南児童相談所
	19 医療関係者・団体・機関	精神科医師
	20 教育関係機関	田辺市教育研究所
	21 教育関係機関	田辺市養護教諭研究会
	22 教育関係機関	紀南六校代表
	23 教育関係機関	西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表
	24 民生委員・児童委員	龍神地区
	25 民生委員・児童委員	大塔地区
	26 民生委員・児童委員	中辺路地区
	27 民生委員・児童委員	本宮地区
	28 民生委員・児童委員	主任児童委員
	29 家族会	
	30 当事者	
	31 田辺市行政	保健福祉部長
	32 田辺市行政	子育て推進課
	33 田辺市行政	商工振興課